

第51回全国中学校ハンドボール大会

試合結果・戦評報告

競技日	令和4年8月20日(土)	試合番号	A10	回戦	3回戦
種別	中学生	会場	函館アリーナ メインアリーナ Aコート		

Aチーム			Bチーム		
京田辺市立田辺中学校(京都)			氷見市立十三中学校(富山)		
得点合計	小計		小計	得点合計	
21	7	前半	13	31	
	14	後半	18		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7 m T C			

戦評

氷見十三中がフォーメーションで先制。田辺中は、細かくパスをつないで8番のフェイントから得点で返す。氷見十三中は、コートの幅をいっぱいに使ったボール回しから、4番、7番のサイドシュート、2番のミドルシュートと5分過ぎには5対1とする。これに対し田辺中は、4番のサイドシュート、8番のカットインなどの連取で反撃をするが、氷見十三中は2番のミドルや両サイドからの攻撃で着実に得点を重ね、20分には10点に到達する。田辺中は、2番を中心にねばり強く攻撃を重ねるが、氷見十三中1番GKの好守に阻まれ、なかなか得点できない。それでもポストプレーからの得点や7mTで、前半を13対7で折り返す。

後半、田辺中は、スピードにのった8番のカットインや2番のミドルシュートなど、思い切りのあるプレーで得点する場面が多くなった。流れが田辺中に傾くかに思えたが、7mTを止めるなど、氷見十三中は1番GKの好守で流れを渡さない。10分過ぎ、田辺中は、氷見十三中の展開の起点となる3番にマンツーマンをつけるが、5対5になったところをサイドに展開され、正確なサイドシュートでついに10点差とされる。田辺中は、14分過ぎにタイムアウトをとり、DFラインをあげて変則5:1DFにしたり、ダブルポストに変更したりするなどのシフト変更を試み、最後まで諦めない姿勢を見せ続けたが、最後は31対21で氷見十三中が準決勝へ駒を進めた。

記載者名

高田 智史